

ぎふ専研レポート

「勝(克)つ企業(お店)」- ③

「未来への取り組み」

中小企業診断士 **大野 実雄**

まなければいけません。
情報化に取り組みないと、お得意さんへの迅速なサービス提供、仕入先との情報交換、業務のスピード化、社内伝達の迅速な対応ができなくなります。とにかく、時代が変化しているので、直ぐに取り組んでおくことが必要です。
情報化の目的は、業種により若干異なりますが、経営のスピード化、意志決定の迅速化、情報の有効活用、顧客対応、新商品開発、販売促進、業務効率化・スピード化などがあげられると思います。



◆情報化取り組みのポイントとして：

① 高度情報化社会への対応
今まさに、高度情報化社会ですから、高度情報化への対応が企業の成長に大きく影響を及ぼすことになります。市場・業界情報を有効に使うとか、仕入先、メーカーとのネットワークを結ぶとか、お客さんとの有益情報を通信回線で結ぶとかをしていかないと、時代に取り残されてしまいます。
メーカー、卸業、小売業、サービス業、建設業などを問わず全ての企業は、情報管理、情報ネットワーク、電子商取引、電子決済などに取り組

② 中長期ビジョン↓今後は「情報」が競争力の源泉になるため、自社のデータ資産を戦略的に活用し、情報を通じて顧客に新たな価値を提供することを軸とした経営戦略の立案を行う。
③ デジタル人材の育成・確保↓社内研修、eラーニングでリスキリング

(再教育)を推進。ITやデータサイエンスに強い人材の中途採用・新卒採用強化を図る。
④ リスク管理・ガバナンス面での取り組み↓◎情報セキュリティの強化・情報漏洩・サイバー攻撃対策(SOCの導入、ゼロトラストセキュリティなど)。社員向けのセキュリティ教育◎法令遵守・ガバナンス体制の強化・個人情報保護(Pマーク、GDPR等の順守)。AI・情報技術に関する倫理的配慮と社内ルール整備(AI活用規定の策定など)。
⑤ 中小企業や店舗における取り組みの進め方(ステップ例)↓(1)業務の棚卸し(「どこが非効率か」を洗い出す)(2)小さなデジタル化(例：紙からクラウドへ)から始める(3)IT補助金などを活用しながら本格導入

おの じつ お
大野 実雄
中小企業診断士・販売士

●プロフィール
メーカー、経営コンサルティングファームを経てオオノ経営労務事務所開設。「変化には変化でしか対応できない」を企業支援の基本としている。著書に「売れるように売れば必ず売れる」「働き方・生き方こころの軸」「勝つ企業」等がある。



(4) 社員教育と社内文化の改革 (5) 継続的に見直し・改善

② 少子・高齢化社会への対応



① 今後どうしても避けて通れないのが、少子高齢化問題です。高齢化社会というのは、高齢者が多いということですが、少子高齢化社会は、子供が少なくて高齢者が多いのですから、日本も医療、年金、福祉関係に多くのお金がかかる時代になっていきます。

しかし、過去にはなかったビジネスチャンスも多く出てきます。若年者が少ない時代に、いかに経験豊かな高齢者を社会の中、企業の中で有効に活用するかも企業の責任となっ



高齢者だから新しいものに対応が鈍いとか、変化に弱いという先入観を捨てて下さい。これからは、高齢者の豊富な経験と新しい技術を組み合わせた従来にないようなニュービジネスも数多く出そうです。

② 持続可能な経営体制の構築↓(1)市場・顧客の高齢化への対応・高齢者が主要な消費層になるため、商品・

③ 環境問題への対応



① さらに、地球規模での環境問題です。省資源・省エネルギー・再生資源化とか、商品・容器・包装材料リサイクル、廃棄物の削減・リサイクルの問題とか、ゴミの問題とか、食品のダイオキシン、環境ホルモンの問題とか、自動車の燃費向上、CO₂排出量削減とか、産業廃棄物の環境問題とか、省エネ型製品の要求、ペーパーレス化の推進、再生紙などのエコ商品の利用、商品・部品の再利用・再利用など……。



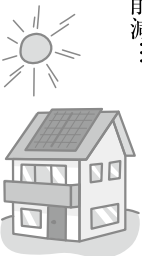
今までの「生産性向上」という考え方の大量生産、大量消費から、今後は効率化を目指す資源の有効活用の時代が変わった中で、企業は環境に対する考え方も変わっていかなくてはなりません。売れば終わりという時代は確実に終わりました。

環境対策が自社にとっての死活問題となる内容には、コストはかかりませんが優先的に取り組んでいかないと事業活動が損なわれることにもなっ

てきますし、社会から見放されることにもなります。環境への対応次第で勝ち組と負け組になることが多くなりそうです。

② 企業や店舗が環境問題に対処するためには、単なる「社会貢献」ではなく、経営戦略の一環として「環境配慮型の企業活動」を組み込むことが重要です。

③ エネルギー効率化・省エネ対策の具体例：(1)高効率機器(LED照明、高効率空調、インバーター制御)への切り替え(2)再生可能エネルギー(太陽光、バイオマスなど)の導入(3)建物断熱や遮熱塗料の活用で冷暖房の負荷を削減…



*参考文献「持続可能な社会のために(岩崎書店)」
「2040年の未来予測(日経BP)」
*本文とは異なる説もありますのでご了承ください。
*イラストはイメージです。